

新国立劇場開場15周年 2012/2013 シーズン演劇公演

長い墓標の列

作◎福田善之 演出◎宮田慶子

2013年3月7日(木)～24日(日)

新国立劇場 小劇場

揺れる時代に、自分の哲学を貫き通したある男の物語

開所から8年を迎える新国立劇場演劇研修所。その修了生を多数起用し、ベテラン俳優たちとともに舞台を立ち上げる新しい企画がスタートします。その第一弾として、近年上演が相次ぐ福田善之の初期戯曲の中から、『長い墓標の列』を取り上げました。

時は第二次世界大戦前夜。ファシズム批判を唱えたため職を追われた大学教授・山名庄策の奮闘むなしく、大学の自治は踏みにじられ、弟子たちからも裏切られます。そんな彼を師と慕う新聞記者や陰ながら見守る家族に支えられながら、戦争の暗い影が日本を覆う中でも、理想とする社会の追求のため研究への情熱を燃やす一人の知識人の姿を描きます。

ドラマや舞台で誠実な人物を好演する村田雄浩、『リチャード三世』での迫真の演技も記憶に新しい那須佐代子ら実力派の俳優に加え、研修所を修了した才能豊かな注目の若手俳優たちが研究者や学生、記者として14名出演。彼らの熱い演技にも注目です。

芸術監督就任以降、『負傷者16人』や『るつぼ』といった、硬質な戯曲の演出で卓越した成果を挙げてきた宮田慶子が、満を持して挑む『長い墓標の列』。先の見えない現代だからこそ、時代にあらがい、己の信念を貫く男の物語は、観る者の胸を打つに違いありません。

【チケット好評発売中！ ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 田中雅司

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 村本千晶、伊澤雅子

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

2005年に開設された新国立劇場演劇研修所。現在、第6期生から第8期生までが在籍し、修了生たちはさまざまな公演に出演しています。研修所の講師も務める芸術監督の宮田慶子は、ベテラン俳優たちとともに、修了生と作品を制作するシリーズを企画しました。その第一弾として、福田善之の『長い墓標の列』をお届けします。

『長い墓標の列』は、東大経済学部の河合栄治郎事件をモデルに、1957年に早大劇研によって初演され、その後改訂版が58年にぶどうの会によって上演されています。当時の学生運動、政治運動の中で作家自身の青春も投影されているような印象を与えます。

近年、『真田風雲録』や『袴垂れはどこだ』など、初期の福田作品の上演が見られますが、『長い墓標の列』も含め、冷徹で、しかし熱い視点で描かれた群像劇は、今という時代にあって改めて強く訴える力を持っています。

河合栄治郎事件＝自由主義者・河合栄治郎が思想弾圧を受けた事件。東京帝国大学経済学部教授・河合栄治郎が海外留学から帰国後、ファシズム批判の姿勢を強め社会政策を講じる。『ファシズム批判』(1934年)など著書4冊が発売禁止処分にされたことを契機に、大学総長・平賀譲が河合の処分を決意し、1939年休職処分となった。

◎あらすじ

昭和13年秋、時代は軍部主導によるファシズムに傾倒し、大学自治も国家主義・全体主義の風潮の中、その自由を失おうとしていた。

経済学部教授で純理派の山名(＝**村田雄浩**)は、自治を制限する案を支持する革新派と、ただ一人教授会で戦っていた。弟子の助教授・城崎(＝**古河耕史**)、助手・花里(＝**遠山悠介**)、今は新聞記者である千葉(＝**北川響**)たちも教授会の行方を固唾をのんで見守っていた。結果は山名の勝利に終わったが、勝利により逆に大学を追われる可能性、また身の危険を案じた千葉は、山名に転向することを勧めるが断られる。

政府は即座に山名の出版物を発禁処分とし、辞職させるようにしむける。学部長の村上(＝**小田豊**)は、逆説的ではあるが大学の自治を守るためにも自主退職してほしいと山名に頼むが、山名は自らの思想を裏切ることには人間存在に対する裏切りだと拒否する。

山名の休職発令を受けて、城崎、花里は一度は大学に辞表を提出。時を同じくして、革新派の教授である矢野(＝**石田圭祐**)も辞表を提出していた。しかし、城崎と花里は翻意して復職することを決める。弟子たちの裏切りに対し大きなショックを受ける山名。

昭和19年。激しい空襲警報の中、職を奪われた山名は、妻・久子(＝**那須佐代子**)や娘・弘子(＝**熊坂理恵子**)に支えられながら、狂気にとりつかれたように机に貼り付き研究している。情勢は山名の予想通り悪化の道をたどっていた。そこに、教授になった城崎があらわれ、花里が戦死したことを告げる。山名は薄れゆく意識の中で、最後まで城崎に自らの理想的自由主義的社会主義を反問しつづける……。

◎作者からのメッセージ

福田 善之

私は高校中退の危機を、親しい先輩の河合武さんの家に居候になることで救われた。彼の父上が河合栄治郎教授で、河合事件、また東大経済学部事件といわれるものの主人公。終戦の前年に亡くなられているから、当然お目にかかったことはないが、私は居候生活を教授の著書に読みふけることから始めた。

数年のち、どうやら自分が芝居書きになりたいらしい、と思えはじめたとき、自然に河合家のことを考えた。まず、よく知っていることから書こう、河合家のことなら、私はそこに暮らしていたのだから。—1957年雑誌「新日本文学」に発表。早大劇研による初演は六時間かかった。このとき大隈講堂の廊下で、朝倉摂さんに初めて会った。

ごく近年になって、井上ひさしさんが、

「僕はずっと福田さんて、いい家に生まれた人だと思ってた」

と言ったのは、この『長い墓標』の印象からだったかもしれない。すると、あの作はまあ書けていた、ということになるのかなと、いまごろ思う。

◎演出家からのメッセージ

宮田 慶子

『真田風雲録』『オッペケペ』『袴垂れはどこだ』など、福田善之氏の代表作に先立って1957年に発表されたのが、『長い墓標の列』です。この戯曲には、後年発表された作品に至る、いわばエッセンスが凝縮されていると言えます。

思想的に急進性と力強さが明らかになっていったその後の作品の根底にある、究極の人間存在の証明としての「自由」と「知性」を訴える力が、作品全体を貫いています。国家、社会主義、知識階級、ジャーナリズムをめぐる痛烈で濃密な会話は、時代や社会状況を超えて今尚、興奮せずにはられません。

これ程の言葉達を、演劇の言葉として立ち上げる重責を、若き学者達、学生達の配役として、新国立劇場演劇研修所から巣立った、若い俳優達が担ってくれるのも、大きな魅力です。精神のエネルギーを清廉な世界に描き出したいと願っています。

◎プロフィール

作◎ 福田 善之 (ふくだ・よしゆき)

1931年東京生まれ。新聞記者、演出助手などを経て、劇団青年芸術劇場に参加。59年『長い墓標の列』が岸田國士戯曲賞佳作に選出。以後、『遠くまで行くんた』『真田風雲録』『オッペケペ』『袴垂れはどこだ』などの秀作を発表し、注目される。その後は、ミュージカルなどの劇作・演出家として幅広く活躍。

ほかに、大河ドラマ『風と雲と虹と』など、映画シナリオやテレビ・ラジオドラマも執筆している。

93年『壁の中の妖精』『幻燈辻馬車』で、第28回紀伊國屋演劇賞、95年『私の下町— 母の写真』で第46回読売文学賞、99年『壁の中の妖精』の演出で読売演劇大賞優秀演出家賞、2000年『壁の中の妖精』の戯曲で齊田喬戯曲賞などを受賞。

1974年、中岡慎太郎を軸に高杉晋作、久坂玄瑞らを描いた歴史小説『草莽無頼なり』(乱雲篇)を発表。10年、颯風篇、光芒篇を書きついで朝日新聞出版より刊行。四十年の宿願を達した。11年の作・演出作品に『新訂ワグナー家の女』(桐朋短大専攻科)、『夢、ハムレット—陽炎編』(Pカンパニー)、『ねこのくにおきやくさま』(こんにやく座、オペラ台本)、『一人芝居 草鞋をはいて』(京楽座)などがある。

01年紫綬褒章受章。現在、日本劇作家協会顧問、日本演出者協会評議員。

演出◎ 宮田 慶子 (みやた・けいこ)

1957年生まれ、東京都出身。80年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。2010年9月より、新国立劇場演劇芸術監督。新国立劇場演劇研修所講師・サポート委員。社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。

主な受賞歴に、94年第29回紀伊國屋演劇賞個人賞(『MOTHER』青年座)、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(『フユヒコ』青年座)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(新国立劇場公演『ディア・ライアー』)、01年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(『赤シャツ』『悔しい女』青年座、『サラ』松竹)など。

上記以外の主な演出作品に、『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と九ちゃん』『千里眼の女』『をんな善哉』(青年座)、『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『紫式部ものがたり』『ガブリエル・シャネル』(松竹)、『ノイズズオフ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』(ホリプロ)、『ふたたびの恋』『LOVE30』『Triangle Vol.1, Vol.2』(パルコ)、『伝説の女優』『ウェディング・ママ』(アトリエ・ダンカン)など。

新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を、芸術監督就任以降は『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』『朱雀家の滅亡』『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』『るつぽ』と、オペラ『沈黙』を演出している。

山名庄策◇ 村田 雄浩 (むらた・たけひろ)



1979年『思えば遠くへ来たもんだ』で映画デビュー。テレビ『青が散る』『滯つくし』『飛ぶが如く』を経て、92年、伊丹十三監督『シンボーの女』、そして中島丈博監督の『おこげ』により、日本アカデミー賞他数々の映画賞を受賞。

その後、映画『マルタイの女』『ゴジラ2000ミレニアム』『釣りバカ日誌イレブン』『助太刀屋助六』『壬生義士伝』『理由』『22才の別れ』、テレビ『炎立つ』『女検事霞夕子』シリーズ『ちゅらさん』『スチュワーデス刑事』シリーズ、橋田壽賀子ドラマ『ハルとナツ』『渡る世間は鬼ばかり』、舞台『ガラスの動物園』『イーハートーボの劇列車』『昭和歌謡大全』『丘の上のイエツペ』『もとの黙阿弥』『おんな太閤記』『雪やこんこん』などで活躍。2007年『風の盆ながれ唄』で、2007年文化庁芸術祭優秀賞を受賞する。新国立劇場には初登場。

山名久子◇ 那須 佐代子 (なす・さよこ)



青年座研究所を経て、1989年青年座座員に。テレビ『梅ちゃん先生』『どんど晴れ』など、映画『ひまわりと子犬の7日間』『おとうと』『釣りバカ日誌』などで幅広く活躍。舞台は劇団公演『THAT FACE～その顔』『あおげばとうし』『悔しい女』『夫婦レコード』『フユヒコ』などのほか、外部公演では『太陽に灼かれて』『ポルノグラフィ』『ガブリエル・シャネル』『葡萄』『闇に咲く花』などに出演。新国立劇場では『浮標』『オットーと呼ばれる日本人』『ヘンリー六世』三部作『リチャード三世』に出演。第47回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

城崎 啓◇ 古河 耕史 (ふるかわ・こうじ)



2008年、新国立劇場演劇研修所を一期生として修了。修了後、舞台は、『パイパー』『関数ドミノ』『監視カメラが忘れたアリア』『エゴ・サーチ』『キネマの天地』『千に砕け散る空の星』『イントレランスの祭』など。テレビ『階段のうた season6』、映画『終の信託』など映像でも活躍している。新国立劇場では『オットーと呼ばれる日本人』『ヘンリー六世』三部作に出演。

千葉 順◇ 北川 響 (きたがわ・ひびき)



2008年、新国立劇場演劇研修所を一期生として修了。修了後、舞台『闇に咲く花』『蜚蜚峠』『お気に召すまま』『ラスコーリニコフとスヴィドリガイロフ』『ふたごの星』『三人姉妹』などに出演。テレビ『塚原ト伝』『獣医ドリル』、ラジオ、青春アドベンチャー『魔術師』などでも活躍。新国立劇場では『オットーと呼ばれる日本人』『西埠頭』『雨』に出演。

◎新国立劇場演劇研修所について

新国立劇場演劇研修所は、同オペラ研修所、同バレエ研修所に続き、2005年4月、演出家の栗山民也を所長として、西新宿の芸能花伝舎に開設されました。明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指しており、現在、第6期生から第8期生までの計38名が在籍しています。

研修期間は3年間。1～2年次は、演技、ヴォイス、ムーブメントの基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行っています。

毎年度、厳しい選考を経た12名ほどが入所し、現在までに第1期生から第5期生まで68名が修了、新国立劇場の主催公演のみならず、多くのプロデュース公演に出演するなど、活躍の幅を広げています。

◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、2010/2011 シーズンより「マンスリー・プロジェクト」が始動しました。リーディングあり、講座あり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

『長い墓標の列』が上演される3月は、同公演の作者である福田善之、演劇評論家の扇田昭彦を講師に迎え、「福田善之の世界」と題したトークセッションを開催。戯曲、映画、テレビのシナリオ、小説と、さまざまなジャンルで横断的に活躍し、今も精力的に作品を発表し続けている彼の作品世界を語り合います。

トークセッション「福田善之の世界」

講師：福田善之(劇作家・演出家)、扇田昭彦(演劇評論家)

日時：2013年3月16日(土)17:30

会場：新国立劇場 小劇場

2013年2月12日(火)～3月4日(月)の応募期間内に、新国立劇場ウェブサイトの所定のフォーマットもしくは往復ハガキでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場マンスリー・プロジェクトのウェブサイト(<http://www.nntt.jac.go.jp/play/mp>)か、情報センター(03-5351-3011(代))でご確認ください。

◎公演概要

【タイトル】 「長い墓標の列」

【スタッフ】 作 福田善之
 演出 宮田慶子
 美術 伊藤雅子
 照明 鈴木武人
 音響 上田好生
 衣裳 半田悦子
 演出助手 渡邊千穂
 舞台監督 福本伸生
 芸術監督 宮田慶子
 主催 新国立劇場

【キャスト】 村田雄浩 那須佐代子 石田圭祐 小田 豊
 古河耕史 北川 響 遠山悠介 西原康彰 熊坂理恵子
 安藤大悟 今井 聡 扇田森也 チョウ・ヨンホ 大里秀一郎
 梶原 航 形桐レイメイ 川口高志 林田航平

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2013年3月7日(木)～24日(日)

2013年	3/7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	祝	木	金	土	日
13:00			●	◎★						●	◎			◎			◎	●
14:00					●	休演	◎	●				●	休演					
18:30	●	●							●						●	●		

◎=託児室あり(要予約) / ★=終演後、シアタートーク / 3/16(土)17:30=マンスリー・プロジェクト

【前売開始】 2012年12月15日(土)10:00～

【料金】 A席 5,250円 B席 3,150円

チケット申し込み・問い合わせ

新国立劇場ボックスオフィス 電話 03-5352-9999 (10:00～18:00)
 窓口 劇場1階メインエントランス (10:00～19:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

その他チケット取り扱い

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、CNプレイガイド ほか

* **Z席 1,500円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。